

市立函館博物館 HAKODATE CITY MUSEUM

〒040-0044 北海道函館市青柳町17-1 (函館公園内)
TEL : 0138-23-5480 FAX : 0138-23-0831
E-MAIL : hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp
HP : http://hakohaku.com



ご利用案内

開館時間

9:00 ~ 16:30 (4月から10月)

9:00 ~ 16:00 (11月から3月)

休館日

月曜日、毎月最終金曜日 (特別展等の期間は除く)

祝日 (ゴールデンウィーク期間と文化の日は除く)、年末年始

※その他展示替え等による臨時休館があります。

入館料

一般 : 100円 学生 : 50円

- ・10名以上の団体は団体料金 (2割引)。
- ・函館市に居住か市内の学校に在学する小・中学生は無料。
- ・函館市に住所を有する65歳以上の方は50円。
- ・函館市に住所を有する障がいのある方は無料。
- ・常設展期間の日曜日は無料となります。
- ・特別展等の開催期間は料金が変わります。
- ・その他入館料免除規定もございますので、詳しくは当館へお問い合わせください。

アクセス



市電2系統 (谷地頭行) に乗車し、
青柳町電停で下車。函館公園を
通り徒歩7分。



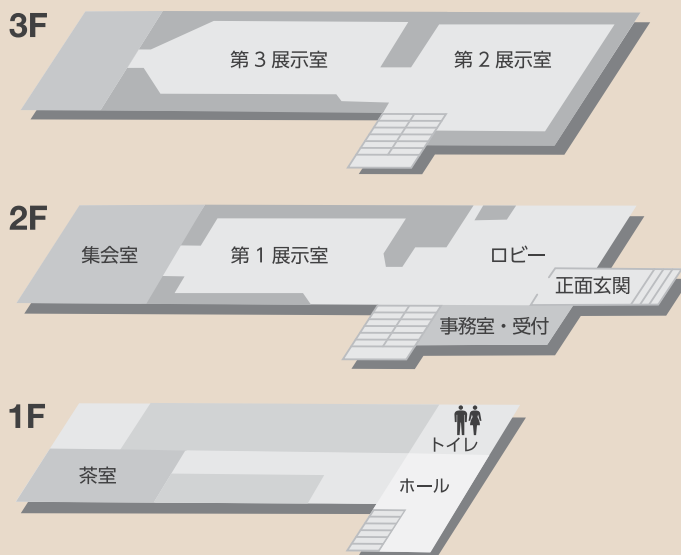
お問い合わせ先

〒040-0044 北海道函館市青柳町17-1 (函館公園内)
TEL : 0138-23-5480 FAX : 0138-23-0831
E-MAIL : hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp
HP : http://hakohaku.com



展示案内

当館の常設展示は、テーマを設定した収蔵資料展として毎年内容が変わります。展示内容は、市内外の遺跡から出土した土器・石器・土偶などの考古資料、蠣崎波響の掛け軸や市内作家の油絵などの美術資料、市内で見られる鳥の剥製や昆虫標本などの自然資料、箱館戦争や函館大火などに関する歴史資料、戦後の生活道具などの民俗資料が主なものです。また、当館の歴史に関わる資料として、開拓使収集の民族資料や魚類標本、明治期の展示ケースなどもあります。詳しくは、当館ホームページでご確認ください。



明治

- 1875 (明治 8) 6月 開拓使東京出張所構内に北海道物産縦覧(観)所が設置される。
- 1876 (明治 9) 2月 北海道物産縦覧(観)所が開拓使東京仮博物館と改称される。
- 1878 (明治 11) 3月 函館公園の造成が開始される。
- 5月 函館公園内に博物館建設を決定する。
- 1879 (明治 12) 5月 函館仮博物館(第一館)が開場する。
- 11月 函館公園が開園する。
- 1881 (明治 14) 5月 開拓使東京仮博物館が廃止され、所蔵資料が函館仮博物館に移管される。
- 1882 (明治 15) 2月 開拓使廃止により、函館県の所管となる。
- 1884 (明治 17) 8月 函館公園内に第二博物館(第二館)が開場する。
- 1886 (明治 19) 1月 博物館が北海道庁所管となる。
- 1891 (明治 24) 1月 博物館第二館が庁立函館商業学校の商品陳列場となる。
- 7月 水産陳列場(第三館)が開場、函館区が管理。
- 1892 (明治 25) 3月 博物館第一館が庁立函館商業学校の商品陳列場となる。
- 4月 博物館第一館・第二館が庁立函館商業学校附属商品陳列場と改称する。
- 1895 (明治 28) 3月 水産陳列場(第三館)が函館区に払い下げられ、4月から函館区立水産陳列場となる。
- 庁立函館商業学校が廃止され、商品陳列場が庁立函館尋常中学校に引き継がれる。
- 6月 商品陳列場が函館区に払い下げられる。後に水産陳列場第一館・第二館・第三館となる。
- 1901 (明治 34) 4月 水産陳列場第三館が廃場する。

昭和

- 1932 (昭和 7) 8月 水産陳列場第一館に水産館、第二館に先住民族館の看板が掲示される。
- 1943 (昭和 18) 4月 水産館と先住民族館が市立函館図書館附設博物館となる。
- 1948 (昭和 23) 7月 市立函館博物館設置条例が可決され、市立函館図書館内に事務室が置かれる。
- 1950 (昭和 25) 12月 博物館の建設工事が着手される。
- 1955 (昭和 30) 6月 北洋博覧会の観光館を市立函館博物館五稜郭分館として開館する。
- 1963 (昭和 38) 7月 水産館、先住民族館、旧金森洋物店が北海道指定文化財となる。
- 1966 (昭和 41) 4月 市立函館博物館本館が開館する。
- 1969 (昭和 44) 11月 市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)が開館する。
- 1970 (昭和 45) 10月 市立函館博物館友の会が設立される。
- 1982 (昭和 57) 9月 函館市北洋資料館が開館する。

平成

- 1989 (平成元) 11月 函館市北方民族資料館・石川啄木資料館が開館する。(平成5年に、函館市北方民族資料館と函館市文学館となる。)
- 2000 (平成 12) 10月 改修工事が終了し、市立函館博物館郷土資料館が新装開館する。
- 2007 (平成 19) 11月 市立函館博物館五稜郭分館が閉館する。

開拓使函館仮博物館(第一館)



1879年(明治12)5月25日に開場。現存する日本で最も古い博物館建築です。建物は洋風木造平屋建の瓦葺きで、面積は約108㎡です。外観は白ペンキで塗られており、窓は上下スライド式になっています。正面入口には開拓使のしるしである「北辰」(北極星)が刻まれています。開場当初、場内には洋風の木製手すりがあり、中央には5段の円形陳列台が設けられていました。

函館県第二博物館(第二館)



1884年(明治17)8月11日に開場。建物は洋風木造平屋建の亜鉛葺(当初は杉の葺葺)で、面積は約117㎡です。外壁は白のペンキで塗られ、玄関正面のアーチと柱は青色、窓枠は黄色、棟飾りは白、といった色彩豊かな建物でした。玄関はコリント様式風の装飾柱と半円形の欄間があり、窓は上部が半円で下部が上下スライド式で上げ下げに分銅が用いられていました。

水産陳列場(第三館)(現博物館付近)



1891年(明治24)7月1日に開場。建物は洋風木造平屋建で、面積は約317㎡です。自然光と空気の流れを配慮して窓を多く取り付けています。北海道庁立として水産業に関する資料が展示されました。1895年(明治28)に函館区へ払い下げられ、他の二館と合わせて水産陳列場第一館、第二館、第三館として再編されました。その後第三館は1901年(明治34)に廃止され解体されました。